

カーネーションの計画生産に関する研究(第5報)

電照時期および期間と長日処理方法が開花期におよぼす影響

堀川法隆

この実験は1979年9月から1981年5月までの約2ケ年にわたって実施した。用いた品種は"レナ"で65 cm×22 cm×19 cmのプラスチックケースに定植し、摘心後の側枝の葉令と電照開始時期および電照期間の影響について検討し、またカーネーション電照栽培の実用化技術についても検討した。結果の大略は次のとおりであった。

1. カーネーションの開花は、1次分枝の展開した対生葉が4枚に生育した時期に電照を開始した時最も促進された。しかし、展開した対生葉が7枚時にはすでに電照による開花促進効果は認められなかった。また、電照開始時期が摘心直後からの場合、2次分枝数とその生育を抑制した。
2. 展開した対生葉4枚時に電照を開始した場合、20日の電照期間で開花は最も促進された。また、この程度の電照では2次分枝の発生数と生育は抑制されなかった。
3. 3時間の光中断か16時間以上の長日条件では開花が促進されたが、この条件下では1番花の切花品質がやや低下した。
4. 電照照度が高いほど1番花の開花は促進された。低照度では開花期の幅が広く、不揃いとなった。